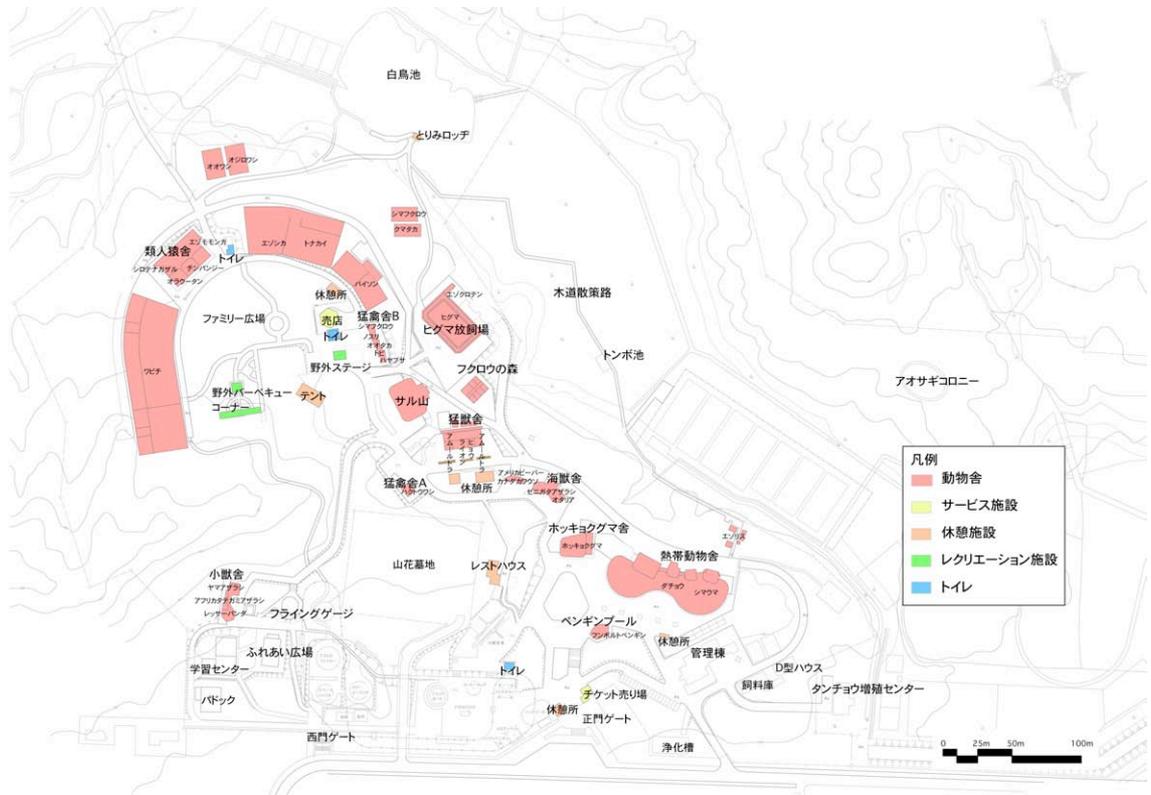


## 2.3. 釧路市動物園内の現況

### 1) 施設

釧路市動物園内には動物展示施設だけでなく、サービス施設、レクリエーション施設、便益施設、遊戯施設、休憩施設などの施設があります。多くは昭和50年代に作られた施設であり、全体的に老朽化してきている状況にあります。レストランや一部遊戯施設が閉鎖となりサービス施設が不十分である現状にもあります。

他の動物園にはみられない、特徴的な施設としては、レクリエーション施設の一つである野外バーベキューコーナーがあり、市民に広く楽しまれている施設です。



施設平面図



破損している施設（デッキ）



新設された野外バーベキューコーナー

## 2) 動物展示施設

釧路市動物園内にある動物展示施設の多くも昭和50年代に作られた施設であり、全体的に老朽化してきている状況にあります。展示方法には、近くで動物が感じられないといった課題や、動物展示施設の配置自体にも一貫したコンセプトがないという課題があります。動物展示全体に関して何をどのように伝えていくのかという明確なコンセプトがないのが現状です。

一方で、近年、ヒグマの至近距離展示やエゾリスの行動展示等、身近な動物を近くで動きを感じられる動物展示施設の整備が行われ始めてきています。

また、釧路市動物園の動物展示施設は以下の大きな特性があります。

- ゾウ、キリンがいない一方で、シマフクロウ、ヒグマ、エゾリス等、北海道に生息する動物が充実している
- 近い気候で生息する寒帯動物が充実している
- 釧路の冷涼な気候に適応したビーバー、カワウソやトナカイなどの動物がいる



動物まで遠く、見下ろすタイプの展示

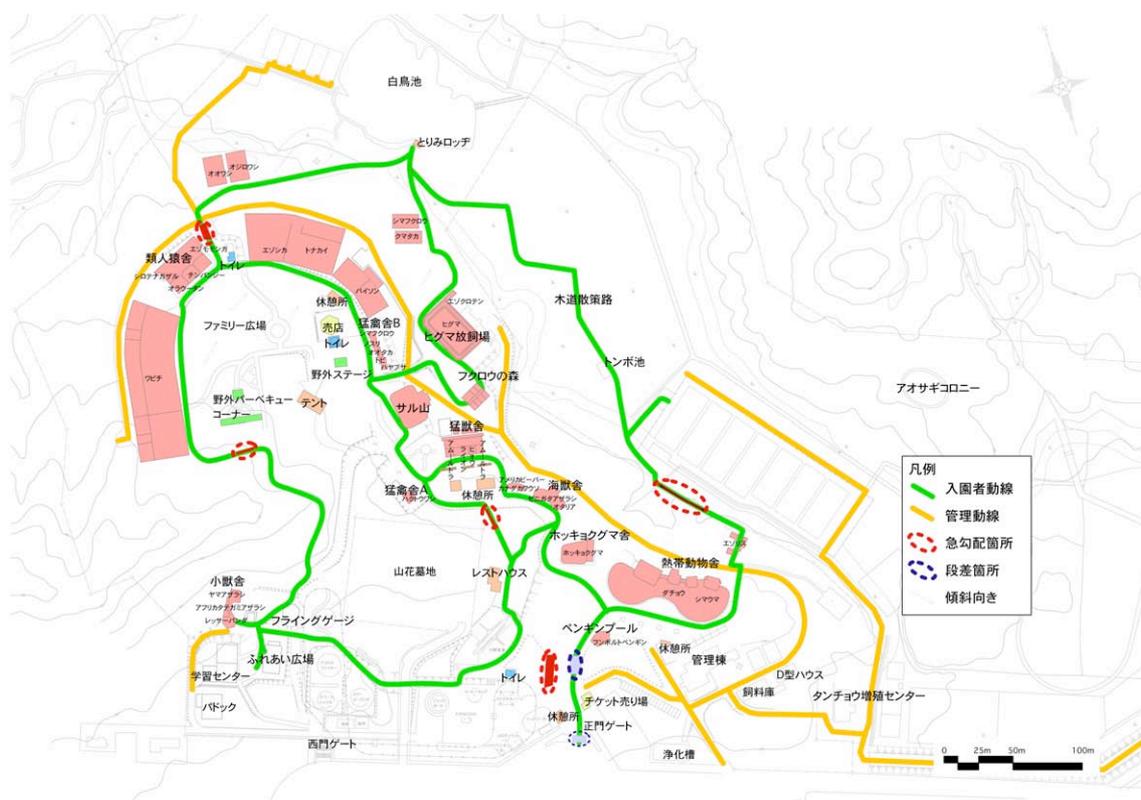


ヒグマの至近距離展示

### 3) 動線

動物園内の利用者の動線は、ゆったりと自由度をもって楽しめるものとなっており、北海道ゾーンでは特に、自然を楽しむことができる動線となっています。しかし、北海道ゾーンが整備される前までは、利用者動線と切り離されて裏にあった管理動線が、北海道ゾーン整備後、利用者動線と交錯する場所が出てきてしまっています。

また、園路自体も老朽化に伴い、破損が見られるとともに、段差や未舗装園路や急勾配などユニバーサル対応がされていない園路がみられます。駐車場から動物園正門まで距離があることや、動物園自体までの広域誘導にも課題があります。



動線平面図



破損がみられる舗装



急勾配な園路

#### 4) 自然環境

釧路市動物園内には、後背の森林とつながる豊かな自然環境があります。その中でも、釧路の大きな特徴である貴重な湿地環境があり、北海道ゾーンの整備により、その自然環境の豊かな動植物を観察できるようになっています。また、その自然環境をいかし、環境と一帯となった動物展示施設も一部にみられ、周囲の自然と共に楽しまれています。動物飼育全般は、豊かできれいな地下水によって支えられており、その中で動物達も生き生きとした姿をみせています。

一方で、広がりのある自然環境をいかしきれておらず、北海道ゾーン以外の園内には緑が足りない状況にもあります。



自然環境図



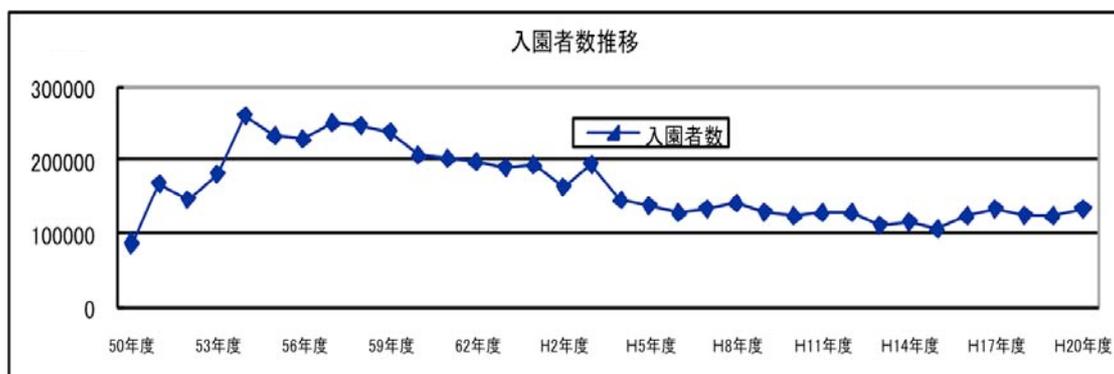
後背の森林とつながる豊かな自然環境



緑が足りない園内

## 5) 利用実態

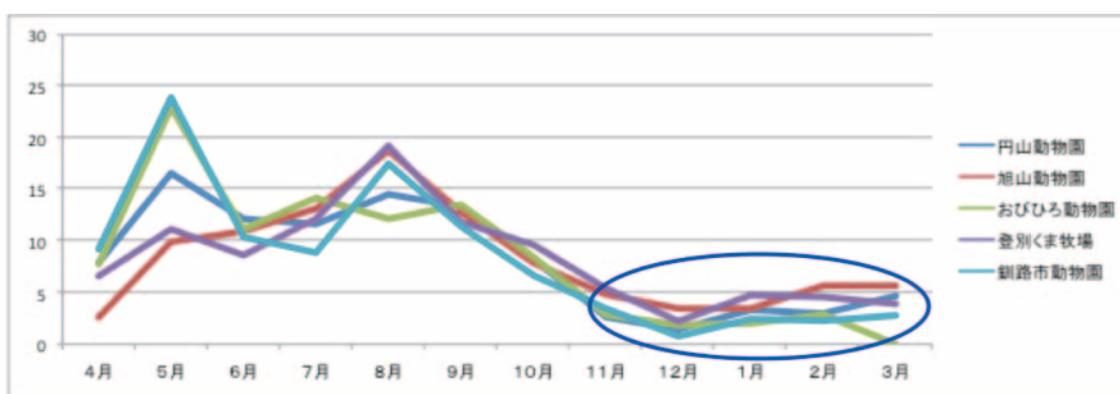
### 入園者数の推移



入園者数は昭和54年の261,099人をピークに減少に転じ、平成15年には103,721人まで落ち込みましたが、現在は12～13万人で推移しています。その中、アムールトラのタイガ・ココアの誕生の影響で平成21年には19万人に到達しています。

### 年間入園者数の推移

地元市民利用が多いため、観光客の変動との関係が見られない年間入園者の推移となっています。北海道の他動物園と比較しても冬期利用が少ない状況にあります。



月別入園者割合比較表(月毎の来園者/年間来園者%)

### 入園者の利用特徴

- 園内を散策してリラックスする意見が多く見られる
- 教育機関、福祉機関ともに団体利用が多い
- 北海道ゾーンの利用者満足度は低く、まだ魅力を伝えられていない状況にある
- 動きのある動物展示に人気が見られる
- 年1回以上来る入園者は半数以上でリピーターは既に多い

## 2.4. 釧路市動物園の特性と課題

釧路市動物園の現状の特性と課題は以下の通りに整理されます。

①立地	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本物の大自然への入口</li> <li>・2つの国立公園に挟まれる立地</li> <li>・空港から7kmの距離に立地</li> <li>・レクリエーション施設が隣接している(山花温泉リフレ、ホースパーク、オートキャンプ場)</li> <li>・阿寒湖から太平洋まで、山と海をつなげる一連の環境の中にある環境立地</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路市中心部から離れており、バスの本数も少なく不便であり、釧路市民にとっては、わざわざ行く場所</li> <li>・隣接したレクリエーション施設との連携取り組み不十分</li> </ul>
②展示／動物	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい展示始まる(エゾリス、エゾクロテン、ヒグマ)</li> <li>・地元で生息する動物が多い</li> <li>・寒帯動物が充実している</li> <li>・高い飼育力、繁殖力</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化してきた動物展示施設</li> <li>・ゾウ、キリンのいない動物園</li> <li>・作業場、バックヤードが狭い</li> <li>・展示スペースが狭い</li> <li>・一貫した動物展示コンセプトがない</li> </ul>
③利用／施設	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元市民利用がほとんどを占めている</li> <li>・園内を散策してリラックスという満足感がみられる</li> <li>・教育機関、福祉機関ともに団体利用が多くみられる</li> <li>・野外料理コーナー</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期利用が少ない</li> <li>・初めての方は、北海道ゾーンに関して満足度が少ない</li> <li>・電動でない簡単な遊び場がない</li> <li>・雨や寒い日などのための屋内施設がない</li> <li>・レストラン、カフェなどのサービス施設がない</li> </ul>
④動線	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆったりと自由度を持って楽しめる動線</li> <li>・自然を満喫できる園路</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急勾配、段差、未舗装園路あり</li> <li>・駐車場から動物園の入口までの距離</li> <li>・管理動線と利用動線の交錯</li> <li>・動物園までの広域誘導が少ない</li> <li>・入園者動線が定まらず、わかりづらい</li> </ul>
⑤環境／景観	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然環境 豊かな林床植物 動植物</li> <li>・釧路らしい湿地環境</li> <li>・豊かできれいな水</li> <li>・敷地の広さ</li> <li>・河岸段丘地形</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道ゾーンをのぞいて、園内自体に木陰が少ない</li> <li>・広さ、自然の豊かさが生かしきれていない</li> </ul>
⑥経営／取り組み／情報発信	
<b>特性</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園者が増えると、食に対する物販やグッズ販売好調であり、今後、積極的に展開していける可能性あり</li> <li>・企業連携がはじまってきた</li> <li>・市民からの寄付やつながりが生まれ始めてきた</li> <li>・夜の動物園のR18ガイドなど特徴のあるガイド</li> <li>・職員による手作りサイン</li> </ul>	<b>課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊園地は今後、赤字を増やす方向に働いていく</li> <li>・有料入園者を増やすには、観光客を取り込んでいく必要がある</li> <li>・全体的に来園者、市民、外へのアピール不足</li> <li>・誘導サイン不足</li> </ul>